令和5年度　学校だより　第３号

と い で の

校訓「自立･創造･敬愛」

４月１日よりホームページが移転・リニューアルしました。ブックマークの変更や再登録をお願いします。

高岡市立戸出東部小学校
令和５年６月12日発行

朝顔栽培が教えてくれたこと

校長　吉田　真寿美

小学校１年生の時、朝顔の栽培をした方はかなり多いと思います。私も育てました。当時は、生活科ではなく、理科の授業でしたが。教員になって何度か担任した１年生でも、毎回、朝顔の栽培をしました。我が家の子供たちも、もちろん、栽培していました。そのような１年生の定番ともいえる朝顔の栽培は、朝顔がどのように成長していくのか、という科学的な知識を得ることだけが目的ではないことを戸出東部小学校の１年生が教えてくれました。

１年生は、５月中旬に朝顔を植えました。そして数日後、子供たちの植木鉢のいくつかで、朝顔が芽を出しました。子供たちは、嬉しそうに「見て見て」と知らせてくれます。栽培活動のよさの１つが見えました。命あるものを愛おしく思う気持ちの育ちです。

また、種について気付いたことを話し合っている場面で、「小石みたいだった」と言う子がいました。確かに小さくて小石みたいだ、と思いながら聞いていたのですが、「種を植える時、下に落としてしまって（小石みたいだから）見つけにくかった」と、その子は、自分の体験したことを語ったのです。なるほど、見た目が小石に似ているという例えでなく、自分の体験して強く印象に残ったことを伝えたかったのだなと気付きました。実際に体験することの大切さを感じた発言でした。

それから何日かして見に行くと、植木鉢の芽が１つの子もいれば、５つの子もいます。いくつ植えるか、自分で決めたのだそうです。「私は、１つじゃかわいそうだと思ったから、５つ植えたの」「ぼくは、広々した方がよく育つと思ったから、１つだけなんだ」と、自分が選んだ数と、その理由を話してくれました。私は、かつて一年生を担任していた時、いくつ植えるかは先生が決めて、クラスの子供たちは一律に５つ植えていたことを思い出しました。あの頃に戻れるなら、私も、いくつ植えるのか自分で決めて、その理由を互いに語る場面を設ければよかったと後悔しました。その方が、主体性や、自分の考えを話す力、友達の話を聴く力が育ったのに、と思ったからです。

またある日は、「〇〇ちゃん、お休みだから、〇〇ちゃんの植木鉢にも水をあげたんだ」と教えてくれる子がいました。友達を思いやる優しい気持ちが育っていると嬉しくなりました。

さらに、おもしろかったのは、「□□くん、５つ植えたのに、６つ芽が出たんだよ」と言う子がいたので、「え～、どうしてだろう？」と、問い返したら「きっと、１つの種から２つ芽が出たんだよ」という答えが返ってきたことです。植える時に、偶然、誰かの種が紛れ込んだのだろうと思った私は、子供の発想、想像力の素敵さに出会い、感動しました。「違うよ、それはね…」と否定するのではなく、もしかしたら、こうかも…、と自由に考える柔軟さを大事にしていきたいものだと思いました。この先の朝顔の成長と共に、１年生の成長がとても楽しみです。

他の学年でも、子供の興味や豊かな発想を手がかりに、学ぶ題材との出会いがより魅力的になるよう、私たち教員もアイディアを出し合っています。そして、学ぶことに前のめりになっていく子供の姿から学んでいます。子供たちの思いや願いをしっかりと受け止め、今育ちつつあるものが大きな実を結ぶように支援していきたいと思います。